

```

0001: |*****
0002: |***      整列 (sort) と 2分探索 (binary search) のルーチン集      ***
0003: |*****
0004: |
0005: |  整列アルゴリズムの分類
0006: |
0007: |  ○  $O(n^2)$ 系：実用にならないが本モジュールで実装
0008: |    ・基本選択法：  学習用途のみ
0009: |    ・基本挿入法：  n=数10程度ならば若干速い。ほとんど整列済みデータならば相当速い
0010: |
0011: |  ○  $O(n \cdot \log(n))$ 系：処理が複雑なので、本モジュールでは未実装
0012: |    ・クイックソート：  一般に最速ゆえに王道。しかし、最悪 $O(n^2)$ と要スタック記憶が問題
0013: |                      各種テクが必要 → 再帰が深いとヒープソートに切替、
0014: |                      → 非再帰化
0015: |                      → 終盤で挿入法を併用
0016: |    ・ヒープソート：平均速さはクイックソートに劣る。しかし、 $O(n \cdot \log(n))$ 保障、スタック不要
0017: |                      (選択法の応用)
0018: |                      (ヒープ：木を配列で表現したもの、優先度付き待ち行列で多用される)
0019: |
0020: |  ○ その他：本モジュールで実装
0021: |    ・シェルソート： $O(n^{1.25})$  nが数万までなら十分実用的 (挿入法の応用)
0022: |
0023: |                      参考文献：石畑清「アルゴリズムとデータ構造」, p149~197, 岩波書店
0024: |
0025: |*****
0026: |  2分探索
0027: |
0028: |  整列済みかつ無重複のデータ列から指定した値の有無と、その記憶位置もしくは挿入すべき位置
0029: |  を探す。2分探索は、半分ずつ存在範囲を絞り込んでいくので、計算量は  $O(\log(n))$ 。
0030: |  一度のみの探索であれば、データ列の整列が不要な線形探索のほうが良い。線形探索の計算量は
0031: |   $O(n)$ と多いが、整列 — どんなに速くても  $O(n \cdot \log(n))$  — が不要なぶん、有利である。
0032: |  しかし、何度も探索する場合には、一度手間をかけて整列させてから2分探索するほうが良い。
0033: |  なお、データの挿入には線形探索が  $O(1)$ 、2分探索が  $O(n)$ 、削除には線形探索が  $O(n)$ 、
0034: |  2分散策も  $O(n)$  である。よって、頻繁なデータ操作がある場合には、別案を考える必要がある。
0035: |
0036: |                      参考文献：石畑清「アルゴリズムとデータ構造」, p67~72, 岩波書店
0037: |

```

```

0038:
0039: *****
0040: 補足) 仮引数(かり-ひきすう) としての配列の記述法と, 計算効率について
0041:
0042: ○ 形状明示配列 (explicit shape array) — 副プログラム内の仮引数仕様で a(n) —
0043:   ・ F77互換のため, 仮配列に割付けられたメモリ域は連続である.
0044:   ・ 長所: 最適化に有利
0045:   ・ 短所: 実引数・仮引数の結合において, 添字の範囲チェックが困難
0046:   ・ 短所: 実引数が部分配列で, 対応するメモリ域が不連続である場合, F77規約違反.
0047:     F90規約には違反していないが, 原理的に一時配列の生成は不可避
0048:     (intel Fortran では -check:arg_temp_created で一時配列生成が実行時に判明)
0049:
0050: ○ 形状引継配列 (assumed shape array) — 副プログラム内の仮引数仕様で a(:) —
0051:   ・ F90で導入された. 仮配列に割付けられたメモリ域は連続でなくとも良い.
0052:   表には一切出てこないが, 裏で配列記述子 (上限, 下限, ストライドなど) が渡されている.
0053:   ・ 長所: 実引数・仮引数の結合において, 添字の範囲チェックが容易
0054:   ・ 長所: 引数の数が減るため, 引数記述時のミスが減る. 可読性が上がる
0055:   ・ 長所: 原理的に一時配列の生成は不要 (ベクトル添字の場合は未確認のまま)
0056:   ・ 短所: 最適化の程度はコンパイラの出来に大きく依存
0057:     (intel Fortran Ver. 12 での経験:
0058:     -fast オプションで IPO — Inter-Procedural Optimization, プロシジャ間での
0059:     大域的な最適化 — あたりを掛けると, 形状明示配列とほぼ同じ速度がでる.
0060:     しかし, 普通の最適化 (プロシジャ毎の最適化) では, 幾分速度が落ちる.
0061:     理由: ストライドの存在ゆえに, アンロールなどの積極的な最適化が困難. )
0062:
0063: 例)
0064: SUBROUTINE sub_F77 ( a, n )           ! INTERFACE記述 も MODULE内配置 も不要
0065:   INTEGER, INTENT(inout) :: a(n)    ! 形状明示配列 (explicit shape array)
0066:   INTEGER, INTNET(in  ) :: n
0067:   : (本例では基本挿入法)
0068: END SUBROUTINE sub_F90
0069: END SUBROUTINE sub_F77
0070:
0071: MODULE procedures
0072: CONTAINS
0073:   SUBROUTINE sub_F90 ( a )           ! INTERFACE記述 もしくは MODULE内配置が必須
0074:     INTEGER, INTENT(inout) :: a(:) ! 形状引継配列 (assumed shape array)
0075:     : (本例では基本挿入法)
0076:   END SUBROUTINE sub_F90
0077: END MODULE procedures
0078:
0079: PROGRAM test
0080:   USE procedures
0081:   :
0082:   CALL sub_F77( a, n )              ! F77 ではこの呼び方のみ
0083:   :                                 ! 一般に最速
0084:
0085:   CALL sub_F77( a(n:1:-2), (n+1)/2 ) ! F77では違反だが, F90では必ず一時配列を作る
0086:   :                                 ! 一時配列は基本的にstack域に. 大きいとstack overflow
0087:
0088:   CALL sub_F90( a )                 ! F90 推奨の呼び方
0089:   :                                 ! しっかりしたF90コンパイラならば sub_F77 と同じ速さ
0090:   :                                 ! (intel Fortran Ver. 12 ならば -fast で同じ速さに.
0091:   :                                 ! 逆に, 何もオプションなければ数割遅かった.
0092:   :                                 ! 結局, IPO など 1以外のストライドの可能性の有無を
0093:   :                                 ! コンパイラが適切に処理できるか否かにある)
0094:
0095:   CALL sub_F90( a(n:1:-2) )         ! しっかりしたF90コンパイラならば 一時配列を作らない
0096:   :                                 ! (ストライド必須ゆえ, intel Fortran Ver. 12 で
0097:   :                                 ! -fast を指定しても数割遅いまま. これは納得できる)
0098:
0099: END PROGRAM test
0100:
0101: 参考文献: 配列引数の効率的な渡し方
0102: http://www.xlsoft.com/jp/products/intel/cvf/docs/vf-html/pg/pg06\_04\_02.htm
0103:

```

```
0104:
0105: MODULE sort_and_search_module
0106:
0107:   IMPLICIT none
0108:   PRIVATE
0109:
0110:   PUBLIC sort
0111:   INTERFACE sort
0112:     ! MODULE PROCEDURE selection_sort_int           ! 学習用
0113:     ! MODULE PROCEDURE insertion_sort_int         ! 学習用
0114:     MODULE PROCEDURE shells_sort_int, &
0115:       & shells_sort_int_with_priority
0116:   END INTERFACE
0117:
0118:   PUBLIC binary_search
0119:   INTERFACE binary_search
0120:     MODULE PROCEDURE binary_search_method_1_int ! いずれか1つのみを選択
0121:     ! MODULE PROCEDURE binary_search_method_2_int !
0122:   END INTERFACE
0123:
0124: CONTAINS
0125:
0126: !
```

```

0127:
0128: !*****
0129: SUBROUTINE selection_sort_int ( a )
0130:
0131: ! 学習用途：単純選択法による a(:) の昇順整列
0132:
0133: ! 比較回数：n*(n-1)/2
0134: ! 交換回数：最大 n-1
0135:
0136: INTEGER, INTENT(inout) :: a(:)
0137: INTEGER :: i, j, n
0138: INTEGER :: m ! a(:) 中で最小値候補がある場所
0139: INTEGER :: tmp
0140:
0141: n = SIZE(a)
0142:
0143: DO i = 1, n-1
0144: ! a(1:i-1) は既に最終形の昇順整列にあり, a(i:n) のみが興味の対象.
0145: ! a(i:n) から最小値を探して, その位置を m とすれば, a(m) と a(i)
0146: ! を入れ替えて, a(1:i) までが最終形の昇順整列を得る.
0147:
0148: ! 最小値の位置を探す
0149: m = i ! a(i:i) 中の最小値の位置
0150: DO j = i+1, n
0151: IF ( a(m) > a(j) ) m = j ! a(i+1:j) 中の最小値の位置
0152: END DO
0153: ! a(i) の値と a(m) の値を入れ替え
0154: IF ( m /= i ) THEN
0155: tmp = a(i)
0156: a(i) = a(m)
0157: a(m) = tmp
0158: END IF
0159:
0160: END DO
0161:
0162: ! 例) a(:)
0163: | 4 | 2 | 1 | 3 | 9 | 2 |
0164: |
0165: | i=1 v -->--->--->---> m = 1 -> 2 -> 3 -> 3 -> 3 -> 3
0166: | 4 | 2 | 1 | 3 | 9 | 2 |
0167: | swap( a(i), a(m) )
0168: | 1 | 2 | 4 | 3 | 9 | 2 |
0169: |
0170: | i=2 済. v -->--->---> m = 2 -> 2 -> 2 -> 2 -> 2
0171: | 1 | 2 | 4 | 3 | 9 | 2 |
0172: | swap( a(i), a(m) ) 不要
0173: | 1 | 2 | 4 | 3 | 9 | 2 |
0174: |
0175: | i=3 ... 済... v -->---> m = 3 -> 4 -> 4 -> 6
0176: | 1 | 2 | 4 | 3 | 9 | 2 |
0177: | swap( a(i), a(m) )
0178: | 1 | 2 | 2 | 3 | 9 | 4 |
0179: |
0180: | i=4 ..... 済..... v -->---> m = 3 -> 3 -> 3
0181: | 1 | 2 | 2 | 3 | 9 | 4 |
0182: | swap( a(i), a(m) ) 不要
0183: | 1 | 2 | 2 | 3 | 9 | 4 |
0184: |
0185: | i=5 ..... 済..... v --> m = 5 -> 6
0186: | 1 | 2 | 2 | 3 | 9 | 4 |
0187: | swap( a(i), a(m) )
0188: | 1 | 2 | 2 | 3 | 4 | 9 |
0189: |
0190: END SUBROUTINE selection_sort_int
0191:
0192: !

```

```

0193:
0194: SUBROUTINE insertion_sort_int ( a )
0195:
0196: ! 学習用途：単純挿入法による a(:) の昇順整列
0197:
0198: ! 比較回数：最大 n*(n-1)/2
0199: ! 交換回数：最大 n*(n-1)/2
0200: ! 特記事項：ほとんど整列済みのデータに対しては高速
0201:
0202: INTEGER, INTENT(inout) :: a(:)
0203: INTEGER :: i, j, n
0204: INTEGER :: pvt ! 注目する a(i) の値 (値の退避場所を兼用)
0205:
0206: n = SIZE(a)
0207:
0208: DO i = 2, n
0209: ! a(1:i-1) は最終形でないが とりあえず昇順整列状態にある。そこで、a(i)の値に注目
0210: pvt = a(i)
0211: IF ( a(i-1) > pvt ) THEN ! 該当しない場合は最初から整列済み (幸運)
0212: ! pvtの値をa(1:i)の昇順となる位置に挿入 (挿入ヶ所を空けるため右から順に右に繰る)
0213: a(i) = a(i-1) ! ループの前処理：1つ右に繰る
0214: DO j = i-1, 2, -1 ! EXITせずにDOループを終えると j=1 に (Fortran仕様)
0215: IF ( a(j-1) <= pvt ) EXIT ! 昇順となる位置jを発見
0216: a(j) = a(j-1) ! a(1:i-2) の値を 右から順に1つ右に繰る
0217: END DO
0218: a(j) = pvt
0219: END IF
0220: END DO
0221:
0222: ! 例) a(:) pvt (レジスタ)
0223: | 4 | 2 | 1 | 3 | 9 | 2 | [ x ]
0224:
0225: i=2 v a(2)の値を とりあえず pvtにコピー
0226: | 4 | 2 | 1 | 3 | 9 | 2 | [(2)]
0227: --> a(1) > pvt なので a(1)の値を a(2)に上書き
0228: | x | 4 | 1 | 3 | 9 | 2 | [ 2 ]
0229: 左端に達したので pvt の値を a(1)に挿入
0230: | 2 | 4 | 1 | 3 | 9 | 2 | [ x ]
0231:
0232: i=3 v a(3)の値を とりあえず pvtにコピー
0233: | 2 | 4 | 1 | 3 | 9 | 2 | [(1)]
0234: --> a(2) > pvt なので a(2)の値を a(3)に上書き
0235: | 2 | x | 4 | 3 | 9 | 2 | [ 1 ]
0236: --> a(1) <= pvt でないので a(1)の値を a(2)に上書き
0237: | x | 2 | 4 | 3 | 9 | 2 | [ 1 ]
0238: 左端に達したので pvtの値を a(1)に挿入
0239: | 1 | 2 | 4 | 3 | 9 | 2 | [ x ]
0240:
0241: i=4 v a(4)の値を とりあえず pvtにコピー
0242: | 1 | 2 | 4 | 3 | 9 | 2 | [(3)]
0243: --> a(3) > pvt なので a(3)の値を a(4)に上書き
0244: | 1 | 2 | x | 4 | 9 | 2 | [ 3 ]
0245: a(2) <= pvt なので pvt の値を a(3)に挿入
0246: | 1 | 2 | 3 | 4 | 9 | 2 | [ x ]
0247:
0248: i=5 v a(5)の値を とりあえず pvtにコピー
0249: | 1 | 2 | 3 | 4 | 9 | 2 | [(9)]
0250: a(4) > pvt でないので 何も処理せず 次へ
0251: | 1 | 2 | 3 | 4 | 9 | 2 | [ x ]
0252:
0253: i=6 v a(6)の値を とりあえず pvtにコピー
0254: | 1 | 2 | 3 | 4 | 9 | 2 | [(2)]
0255: --> a(5) > pvt なので a(5)の値を a(6)に上書き
0256: | 1 | 2 | 3 | 4 | x | 9 | [ 2 ]
0257: --> a(4) <= pvt でないので a(4)の値を a(5)に上書き
0258: | 1 | 2 | 3 | x | 4 | 9 | [ 2 ]
0259: --> a(3) <= pvt でないので a(3)の値を a(4)に上書き
0260: | 1 | 2 | x | 3 | 4 | 9 | [ 2 ]
0261: a(2) <= pvt なので pvt の値を a(3)に挿入
0262: | 1 | 2 | 2 | 3 | 4 | 9 | [ x ]
0263:
0264: END SUBROUTINE insertion_sort_int
0265:
0266: !

```

```

0267:
0268: SUBROUTINE shells_sort_int ( a )
0269:
0270: ! シェルソート(Shell's sort)による a(:) の昇順整列
0271:
0272: ! 単純挿入法がほとんど整列済みのデータ列に対して高速なことを利用した整列法.
0273: ! 1本のデータ列をh本のデータ列に細分すれば, 各列の単純挿入には  $O((n/h)^2)$ .
0274: ! h本あるので, 合計でも  $O(n^2/h)$  に過ぎない. そこで, この h を ..., 40, 13, 4, 1
0275: ! などと漸減させていくことで, 多段的に大雑把な整列をする.  $h>1$  が前処理工程であり,
0276: ! 最終工程  $h=1$  は単純挿入である.
0277:
0278: ! 刻み h は素数列が良いが, 漸化式を  $h \leftarrow 3*h + 1$  とした場合, 経験的に 平均して  $O(n^{1.25})$ 
0279: ! 例えば,  $n = 10000$  ならば  $n*\log(n)=13*10000 > n^{1.25} = 10*10000$ .  $O(n*\log(n))$ 系より速い
0280:
0281: INTEGER,          INTENT(inout) :: a(:)
0282:
0283: INTEGER :: i, j, n
0284: INTEGER :: pvt                                ! 注目する a(i) の値 (値の退避場所を兼用)
0285: INTEGER :: h                                  ! 刻み (  $h>1$  は前処理工程,  $h=1$  は単純挿入工程)
0286:
0287: n = SIZE(a)
0288:
0289: ! n を超えない最大の刻み h を求める
0290: h = 1
0291: DO WHILE ( h < n )
0292:   h = 3*h + 1      ! h = 1, 4, 13, 40, ...
0293: END DO
0294:
0295: DO WHILE ( h > 1 )
0296:   h = h/3 + 1     ! h = ..., 40, 13, 4, 1
0297:   !  $h>1$  は 前処理工程, 最後の  $h=1$  は 最終の単純挿入工程
0298:
0299:   DO i = 1+h, n
0300:     ! h本のデータ列 a(1:i-h:h), a(2:i-h+1:h), ..., a(h:i-1:h) は,
0301:     ! それぞれ昇順整列状態にある (各列同士は無関係). 対応列の a(i) の値に注目
0302:     pvt = a(i)
0303:     IF ( a(i-h) > pvt ) THEN      ! 該当しない場合は最初から整列済み (幸運)
0304:       ! pvtの値を 対応列で昇順となる位置に挿入
0305:       a(i) = a(i-h)             ! ループの前処理: +h右に繰る (対応列では+1右)
0306:       DO j = i-h, 1+h, -h       ! EXITせずにDOループを終えると  $1<=j<=h$  に
0307:         IF ( a(j-h) <= pvt ) EXIT ! 昇順となる位置jを発見
0308:         a(j) = a(j-h)          ! +h右に繰る (対応列では+1右)
0309:       END DO
0310:       a(j) = pvt
0311:     END IF
0312:   END DO
0313:
0314: END DO
0315:
0316: END SUBROUTINE shells_sort_int
0317:
0318: !

```

```

0319:
0320: SUBROUTINE shells_sort_int_with_priority ( a, pri )
0321:
0322: ! 優先度 pri(:) をキーとする a(:) の昇順整列 (参考: 優先度付き待ち行列)
0323:
0324: ! 実装はシェルソート(Shell's sort) (いずれはヒープを使いたいかも…)
0325:
0326: INTEGER,          INTENT(inout) :: a  (:)
0327: INTEGER,          INTENT(inout) :: pri(:) ! 優先度
0328:
0329: INTEGER :: i, j, n
0330: INTEGER :: pvt, tmp
0331: INTEGER :: h
0332:
0333: n = SIZE(a)
0334: IF ( n /= SIZE(pri) ) STOP "sort: データと優先度の個数が不一致"
0335:
0336: h = 1
0337: DO WHILE ( h < n )
0338:   h = 3*h + 1
0339: END DO
0340:
0341: DO WHILE ( h > 1 )
0342:   h = h/3 + 1
0343:
0344:   DO i = 1+h, n
0345:     pvt = pri(i)
0346:     IF ( pri(i-h) > pvt ) THEN
0347:       ; tmp = a(i)
0348:       ; a(i) = a(i-h)
0349:       DO j = i-h, 1+h, -h
0350:         IF ( pri(j-h) <= pvt ) EXIT
0351:         pri(j) = pri(j-h) ; a(j) = a(j-h)
0352:       END DO
0353:       pri(j) = pvt ; a(j) = tmp
0354:     END IF
0355:   END DO
0356:
0357: END DO
0358:
0359: END SUBROUTINE shells_sort_int_with_priority
0360:
0361: !

```

```

0362:
0363: !*****
0364: FUNCTION binary_search_method_1_int ( j, a, exist_ ) RESULT ( loc )
0365:
0366: ! 2分探索法 (方法1) により, 昇順整列済み無重複データ a(:) 中における jの値を探索
0367: ! jの値が存在すれば その位置 loc を, 存在しなければ 挿入すべき位置 loc
0368: ! ( loc以降を1つ後退: a(loc+1:n+1) = a(loc:n); a(loc) = j ) を返す.
0369:
0370: ! 理解し易いであろうアルゴリズム版
0371: !   ・短所: ループ中に 条件分岐が 2 つ
0372: !   ・長所: 存在すれば log(n) 回以下のループで済むことが多い
0373:
0374: INTEGER,          INTENT(in)  :: j          ! 探索値
0375: INTEGER,          INTENT(in)  :: a(:)       ! 昇順整列済み無重複データ
0376: LOGICAL, OPTIONAL, INTENT(out) :: exist_    ! 探索値の存在の有無
0377: INTEGER           :: loc                ! a(:) 中の位置
0378:
0379: INTEGER :: left, middle, right
0380: LOGICAL :: it_exists
0381:
0382: left = LBOUND(a,1)
0383: right = UBOUND(a,1)
0384: DO WHILE ( left <= right )
0385:   middle = ( left + right ) / 2
0386:   IF ( j <= a(middle) ) right = middle - 1 ! jは真中もしくはそれより左ゆえ, 右を詰める
0387:   IF ( a(middle) <= j ) left = middle + 1 ! " " " " " " 右 " " 左 " "
0388:   ! j = a(middle) の場合, 両側から一気に狭まり, 左右逆転してループ終了
0389:   ! (したがって, 2肢択一でなく 3肢択一 となっていることに注意)
0390: END DO
0391: ! ここに辿り着いたときには, a(right) < j < a(left) となっており,
0392: ! jの値があったときには, left - right = 2 ( j = a(middle) の両隣 )
0393: ! " なかった " left - right = 1 ( 存在しない値j の両隣 )
0394:
0395: it_exists = ( left - right == 2 )
0396: IF ( it_exists ) THEN
0397:   loc = middle
0398: ELSE
0399:   loc = left
0400: END IF
0401:
0402: IF ( PRESENT(exist_) ) exist_ = it_exists
0403:
0404: ! 例)      1   2   3   4   v   6   ===== j=8 を探索 =====
0405: ! a(:)=|_2_|_3_|_4_|_6_|_8_|_9_| 1) left = 1, right = 6 からはじめる
0406: ! left|           |right  middle = (left + right)/2 = 3
0407: !           middle           a(middle) = 4 < j ゆえに, left = middle + 1 = 4
0408: !                                     2)
0409: !           left|   |right  middle = (left + right)/2 = 5
0410: !           middle           a(middle) = 8 = j ゆえに, right = 4, left = 6
0411: !                                     3)
0412: !           right|   |left  もはや left <= right でないので終了
0413: !                               なお, j の値の位置は middle が指している
0414: !                               — 見つかる場合は, 2等分割の途中が多い —
0415:
0416: !           1   2   3   4 v 5 6   ===== j=7 を探索 =====
0417: ! a(:)=|_2_|_3_|_4_|_6_|_8_|_9_| 1) left = 1, right = 6 からはじめる
0418: ! left|           |right  middle = (left + right)/2 = 3
0419: !           middle           a(middle) = 4 < j ゆえに, left = middle + 1 = 4
0420: !                                     2)
0421: !           left|   |right  middle = (left + right)/2 = 5
0422: !           middle           a(middle) = 8 > j ゆえに, right = middle - 1 = 4
0423: !                                     3)
0424: !           left|right           middle = (left + right)/2 = 4
0425: !           middle           a(middle) = 6 < j ゆえに, left = middle + 1 = 5
0426: !                                     4)
0427: !           right|   |left  もはや left <= right でないので終了
0428: !                               なお, j の値を挿入すべき位置は left が指している
0429: !                               — 見つからない場合は, 必ず2等分割の最後まで —
0430:
0431: !           v 1   2   3   4   5 6   ===== j=0 を探索 =====
0432: ! a(:)=|_2_|_3_|_4_|_6_|_8_|_9_| 1) left = 1, right = 6 からはじめる
0433: ! left|           |right  middle = (left + right)/2 = 3
0434: !           middle           a(middle) = 4 > j ゆえに, right = middle - 1 = 2
0435: !                                     2)
0436: !           left|   |right           middle = (left + right)/2 = 1
0437: !           middle           a(middle) = 2 > j ゆえに, right = middle - 1 = 0

```



```

0438:      |
0439:      |right|  ||left
0440:      |
0441:      |
0442:      |
0443:      | 3)
0444:      |   もはや left <= right でないので終了
0445:      |   なお、j の値を挿入すべき位置は left が指している
0446:      |   見つからない場合は、必ず2等分割の最後まで
0447:      |
0448:      | !! 以下の書き方もある (3枝択一なので同じこと)
0449:      | DO WHILE ( left <= right )
0450:      |   middle = ( left + right ) / 2
0451:      |   IF      ( a(middle) == j ) THEN ! jを発見したので、終了
0452:      |     loc  = middle
0453:      |     RETURN
0454:      |   ELSE IF ( a(middle) < j ) THEN ! j は真中より右ゆえ、左を詰める
0455:      |     left = middle + 1
0456:      |   ELSE
0457:      |     !      "      左      "      右      "
0458:      |     right = middle - 1
0459:      |   END IF
0460:      | END DO
0461:      | ! a(:)中に jの値が見つければ、ここにたどり着くことはない。
0462:      | ! loc = left
0463:
0464: END FUNCTION binary_search_method_1_int
0465:
0466: FUNCTION binary_search_method_2_int ( j, a, exist_ ) RESULT ( loc )
0467:
0468:   ! 2分探索法 (方法2) により、昇順整列済み無重複データ a(:) 中における jの値を探索
0469:   ! j の値が存在すれば その位置 loc を、存在しなければ 挿入すべき位置 loc
0470:   ! ( loc 以降を1つ後退: a(loc+1:n+1) = a(loc:n); a(loc) = j ) を返す。
0471:
0472:   ! 理解し辛いであろうアルゴリズム版
0473:   !   ・長所: ループ中に 条件分岐が 1 つ
0474:   !   ・短所: 必ず log(n) 回のループが必要
0475:
0476:   INTEGER,          INTENT(in ) :: j      ! 探索値
0477:   INTEGER,          INTENT(in ) :: a(:)    ! 昇順整列済み無重複データ
0478:   LOGICAL, OPTIONAL, INTENT(out ) :: exist_ ! 探索値の存在の有無
0479:   INTEGER          :: loc      ! a(:) 中の位置
0480:
0481:   INTEGER :: left, middle, right
0482:
0483:   left = LBOUND(a,1)
0484:   right = UBOUND(a,1)
0485:   DO WHILE ( left <= right )
0486:     middle = ( left + right ) / 2
0487:     IF ( a(middle) < j ) THEN      ! j は真中より      右ゆえ、左を詰める
0488:       left = middle + 1
0489:     ELSE
0490:       ! j は真中かそれより左  "  右  "
0491:       right = middle - 1
0492:     END IF
0493:   END DO
0494:   loc = left
0495:
0496:   IF ( PRESENT(exist_) ) THEN
0497:     IF ( loc > UBOUND(a,1) ) THEN
0498:       exist_ = .FALSE.
0499:     ELSE
0500:       exist_ = ( j==a(loc) )
0501:     END IF
0502:   END IF
0503:
0504: END FUNCTION binary_search_method_2_int
0505:
0506: END MODULE sort_and_search_module

```